



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



整形外科

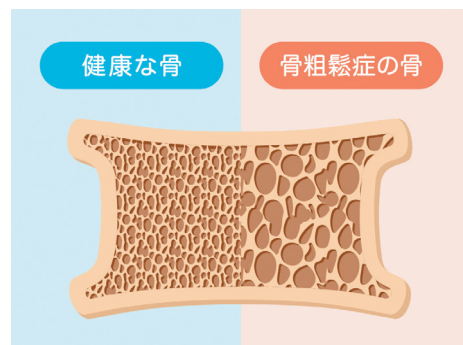
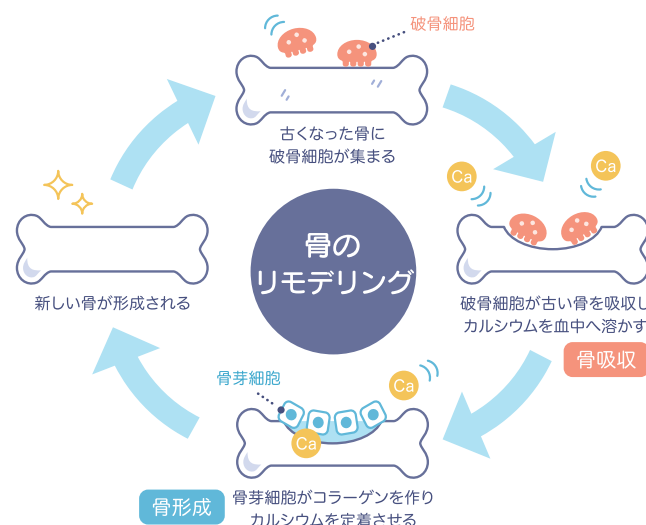
こつ そ しょう しょう 骨粗鬆症について

私たちの体の中では古くなった骨を壊して新しく作り直す骨のリモデリングが行われており、若い人であれば3～4年で体全体の骨が入れ替わっているといわれています。これは古くなった骨を壊す破骨細胞と、新しく骨を作る^{こつが}骨芽細胞の働きによるものです。この破骨細胞による骨吸収と骨芽細胞による骨形成のバランスが崩れ、骨吸収が骨形成を上回ってしまい骨がスカスカになるのが**骨粗鬆症**の状態です。

骨粗鬆症の原因には閉経後骨粗鬆症といった原発性骨粗鬆症、副甲状腺機能亢進症やステロイド、生活習慣病による続発性骨粗鬆症などがあります。骨粗鬆症になると骨折を生じて寝たきりや心肺機能低下といった合併症、疼痛によりQOL(生活の質)やADL(日常の生活動作)が低下してしまい、死亡リスクが上昇してしまうことが問題となります。

骨粗鬆症・骨折予防のためには食生活や環境整備、運動が重要です。食事はバランスよく摂取することが基本で、リン、食塩、カフェイン、アルコールの過剰摂取は控えるように心がけ、カルシウムは1日あたり700～800mgの摂取が勧められています。骨粗鬆症があっても転倒しなければ骨折を生じにくいので、転倒を防ぐ住まいづくりも重要です。外出時は動きやすい服装で。日光をあびながら30分ほどの散歩をすると皮膚でビタミンD(消化管からのカルシウムの吸収促進作用あり)が作成され、筋力訓練にもなるので一石二鳥です。

骨粗鬆症の薬にはカルシウムやビタミンD以外に、破骨細胞の働きを抑えるものや骨芽細胞の働きを改善させるものがあります。**近年、骨粗鬆症の注射薬は著しく進化**しており、治療効果も高いため、重症な骨粗鬆症の方には使用をお勧めしています。注射薬には毎日もしくは週に1・2回、インスリンのように自己注射をするものや、月に1回、半年に1回、1年に1回病院で注射するものなどがあります。既往症によっては使用できない薬もありますので、かかりつけの医師とご相談のうえ検討して下さい。健康に長生きできるように骨粗鬆症による骨折予防に努めましょう。(整形外科 部長 東 努)



麻 酔 科

急速輸血装置の紹介

「出血」は手術室での心停止の原因の1/3を占めるといわれており、これを防ぐために急速輸血（100ml /分以上）が必要となります。

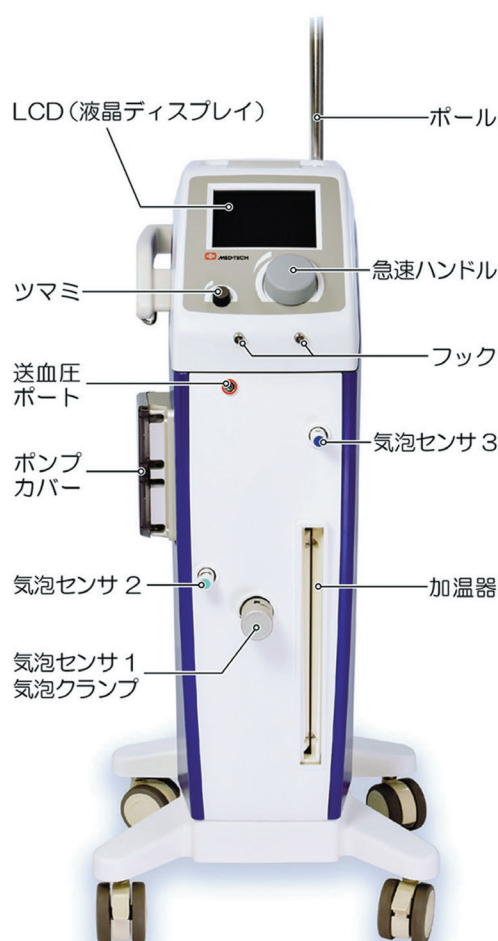
最も簡単なのが注射器を用いて手動で行うポンピングです。しかし、人力なのでスピードに限界があるとともに疲労により遅くなり、また手指消毒がおろそかになると、カテーテル感染のリスクが高まる可能性があります。また、輸血前に血液製剤を加温しておく必要もあります。なぜなら冷たいままの血液を大量に輸血すると、低体温症になり重症不整脈や心停止を誘発するからです。

そこで急速輸血を安全に効果的に行うために **急速輸血装置** があります。加圧型とローラーポンプ型の2種類があり、前者は Level1™ システム 1000（ICU Medical 社製）で当院救急外来にあります。後者は国産の SL One®（IMI 社製）で最近手術室に導入されました。いずれも気泡検知・圧力検知アラームと加温器が内蔵されていて、急速輸血に伴う事故や合併症を防ぐ工夫がされています。SL One® は優れた機械なのですが

万能ではなく、使用の際には以下の点に留意が必要です。

- 輸血用血液製剤の確保・補充戦略が重要
- 輸血合併症（低カルシウム血症・高カリウム血症）に注意
- 術者に出血をコントロールできる技術がないと救命できない

（麻酔科 部長 宇野 太啓）



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら